

令和元年第12回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案（議案第2～4号）を除く

令和元年第12回教育委員会会議

1 日 時 令和元年6月25日（火） 13時30分～14時25分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長谷川	雅 英
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
委 員	石 井	知 子
委 員	道 尻	豊
教育次長	檜 田	英 樹
生涯学習部長	鈴 木	和 弥
学校施設担当部長	永 本	宏
学校規模適正化担当課長	長谷川	敦
学校規模適正化担当係長	佐々木	俊 晃
保健給食課長	木 村	弘 毅
保健係長	中 村	陽 一
保健係員	松 永	浩 平
給食係長	畠 山	亜希子
給食係員	大 川	卓 也
学校教育部長	相 沢	克 明
教育推進・労務担当部長	早 川	修 司
教育推進課長	井 上	達 雄
学事係長	茂 木	貴 徳
学事係員	奥 山	玲 太
児童生徒担当部長	長谷川	正 人
教職員担当部長	紺 野	宏 子
総務課長	宮 地	宏 明
庶務係長	松 平	健 次
書 記	田 中	将 太

4 傍聴者 3名

5 議 題

議案第 1 号 開成中等教育学校の男女別定員について

議案第 2 号 札幌市学校結核対策委員会委員の委嘱について

議案第 3 号 令和元年度札幌市学校給食運営委員会委員の委嘱について

議案第 4 号 令和元年度札幌市奨学生（継続及び補充採用者）の選定について

【開 会】

○長谷川教育長 これより、令和元年第12回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議録の署名は、石井知子委員と道尻豊委員にお願いをいたします。

なお、池田官司委員より、所用により会議を欠席される旨の連絡がありました。

本日の議案第2号及び第3号は附属機関の委員の任免に関する事項、議案第4号は奨学生の選定に関する事項でございます。教育委員会会議規則第14条第1号及び第3号の規定により公開しないこととしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、議案第2号から第4号までは公開しないことといたします。

【議 事】

◎議案第1号 開成中等教育学校の男女別定員について

○長谷川教育長 それでは、議事に入ります。

議案第1号 開成中等教育学校の男女別定員についてであります。

事務局からご説明をお願いします。

○学校教育部長 議案第1号の「開成中等教育学校の男女別定員」についてご説明いたします。

本議案につきましては、市立札幌開成中等教育学校の入学者決定に係る男女別定員を令和3年度入学生から廃止することについて、ご審議いただきたいと考えております。

それでは、内容についてご説明させていただきます。1枚おめくりいただき、資料1「開成中等教育学校の男女別定員について」をご覧ください。

開成中等教育学校の入学者決定にあたりましては、募集人員は160名となっており、開校当初から男子80名、女子80名の男女別定員制としております。

これは、開成中等教育学校は義務教育段階を含む、成長著しい6年間を一貫して見守る学校であり、思春期を含む発達段階の時期であるという特性を踏まえ、男女比に配慮するという基本的な考え方にに基づき、実施をしてきたものであります。

ちなみに、下の参考データですが、当時の他都市の先進事例では、男女同数としている学校が28校中12校、約43%あり、また、その右側のデータですが、

男女別定員を設けない場合、男子4割、女子6割と男女比に偏りが出るとということがございました。

開成中等教育学校では、開校以来、これまで5回の入学者選考を行い、すでに1年生から入学した生徒が、現在5年生まで在籍しております。現時点のところ、この男女別定員により、学校運営上支障が出ているわけではありませんが、制度を作った当初と比べ社会的に、新たな状況が生じております。この資料1の中ほどにございますとおり、札幌市においては、昨年度、「第4次男女共同参画さっぽろプラン」が策定され、多様な性・性別の在り方に対する理解の促進等が謳われており、札幌市教育委員会といたしましても、この考え方を踏まえ、昨年度末にいわゆる男女混合名簿の使用に係る通知を全市立学校に発出してきたところ です。

こうした流れの中で、男女を区別することについて、特段の配慮が求められており、開成中等教育学校の入学者決定に係る男女別定員についても、見直しを行うことが適当と考えたところです。

実施時期につきましては、入学者決定の変更に関する事柄については、他の事柄同様、一定程度の周知期間が必要であることから、令和3年度入学生、すなわち、現在の小学校5年生が出願する時期から適用させたいと考えております。

なお、当該男女別定員については、資料2に添付しております、「市立札幌開成中等教育学校の入学者決定に関する基本方針」に示されております。

このたびの男女別定員の廃止については、令和3年度入学生からの対応となることから、令和2年度の入学者決定は、現行の基本方針に基づき行うこととし、本日お諮りしている廃止に係る基本方針の変更については、来年度改めて改正することとしたいと考えております。

また、この件の周知につきましては、文書による通知の他、小学校長会等で説明するとともに、教育委員会ホームページや開成中等教育学校における学校説明会での周知など、確実に行ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。ご審議の程、よろしくお願いいたします。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対しまして、ご質問、ご意見等がありましたら、お願いをいたします。いかがでしょうか。

○阿部委員 時代の背景とともに、男女別定員を廃止したいというお考えについては、異論はないのですけれども、市民の皆さんの反応として考えられるものはありますか。現在懸念されている点がもしありましたら教えていただければと思います。

○**学校教育部長** 今、こういう時代の状況になってきているというところからすると、このことに対して、特に私どもとしては大きな反対が出るとは想定しておりません。ただ、そもそも今まで男女別定員があったということについて、どうなのかという声は出ることは考えられます。その部分についても、元々この基本方針の中にあるとおり、6年間一貫して見守る学校の中で、環境として一定程度、男女同数にするのが望ましいと進めてきたということですので、このこと自体について、誤りであったということではないですし、実際に学校運営上問題は無いですが、新しいフィルターというか、社会の状況が変わったということでの変更ですということの説明させていただければ、一定程度ご理解はいただけますし、大きな混乱はないと考えております。

○**阿部委員** はい、わかりました。

○**長谷川教育長** 他にはいかがでしょうか。

○**道尻委員** 1つ、もしわかれば教えていただきたいのですが、男女別定員をなくすることについては私も異論はなく、その結論でよろしいかと思えます。実際、中学校を例にとりて考えた場合に、男女別の定員がない普通の中学校と同じような結果になると見込まれているのか、何かそういうサンプル的な検討をされているのか、もしあれば教えていただければと思えます。

○**学校教育部長** 今年度入学した子ども達の入選のデータをベースにして、仮に男女別定員がなかったとしたらというシミュレーションをかけてみました。そのシミュレーションによりますと、男子が44%、女子が56%ということで、若干女子の方が、入学する数が多くなるということはありません。その部分についても、制定当時の男女別を規定していない学校の場合、4割6割というところからすると、そこまではいかないという現状でした。

○**道尻委員** 概ね他の学校と違いも出る理由は、今の話だとなさそうだと思いますし、ぴったり80名80名で同数でなければならぬという理由もないのかなと思いますので、私としては、今回のご提案の方向性でよろしいと思えます。

○**石井委員** 今回の募集で160名を男子女子くくりなく募集することに異論はありません。そういう男性だとか女性だとかという性で区別することなく適正な適している子どもを入学させていただければと思えます。

○佐藤委員 理由を完結にまとめれば、男女の区分が実勢に合わなくなってきたと、性別定員という考えも成り立たなくなってきたということでもありますので、妥当な措置かと思います。

○長谷川教育長 24年当時の全国の動向はわかったのですが、それ以降は変わっているものなのでしょうか。

○学校教育部長 その後、全国の公立中等教育学校が、開成中等を除いて32校と、若干増えています。その内、男女別定員を行っているのが14校ですので、大きく変わっているということではないです。

○長谷川教育長 ありがとうございます。他にはよろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、議案第1号につきましては、提案どおりとさせていただきます。ありがとうございました。

○長谷川教育長 議案第2号は、公開しないことといたしますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

[傍聴者は退席]

以下 非公開